

本時のねらい

濁音と半濁音のひらがなを読み、習った文字が含まれる単語をタブレット端末を使って調べることができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

読み書きに困難さがある生徒への個別の学習の時間。ひらがなの知識定着のための学習をタブレットの操作等を通して進める。書くことに対しては特に困難さがみられる生徒にとっては、タブレットを活用し、紙の学習から置き換えることで興味関心を高め、前向きな姿勢で学習に取り組むことができる。

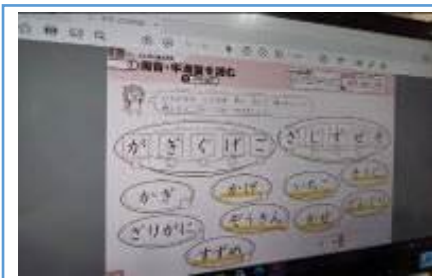
活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット端末 ・教員用タブレット ・PDF 化した教材

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあて、ながれの確認 ○ビジョントレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末でビジョントレーニングの動画（間違い探し）を教員と競い合う形で楽しみながら視聴する。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○一語ずつ読む 例：「かぎ」 ○二語三語の言葉を読む 例：「かぎ」「かげ」「いちご」 ○気になった言葉やイメージが湧かなかった言葉を調べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を PDF 化したデータを教員用のタブレット端末で示すとともに、どこを読んでいるかを分かりやすくペン機能を使って視覚的に支援をする。 ・生徒のタブレット端末をフリック機能が使えるように設定しておき、その使い方に慣れるよう指導する。また、キーボード入力は、ひらがな入力になるよう設定しておき、かな入力にも慣れるように指導を行う。分からない文字があれば 50 音表を使って文字が分かるように支援する。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○今日読んだ言葉をもう一度読む 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう一度読む際に、思い出せない場合は、本人が調べた画像をもう一度表示させて復習させる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真：1 教員のタブレット端末に教材を示し、ペン機能で読む部分にラインを入れながら、どこを読んでいるかを見やすくしている場面



写真：2 読んだ単語をタブレットのフリック機能を使って調べている場面



写真：3 調べた画像と単語をリンクさせながら、その単語の知識定着を図っている場面

児童生徒の反応や変容

自分でひらがなを思い出して書くことは難しい生徒にとっては、タブレット端末のフリック機能であればその困難さは少し軽減された。また、積極的に調べようとする姿が見られた。自分で調べることによってイメージでとらえやすく、知識の定着がなされ、最後にもう一度読むときには、最初に読むときよりもスムーズに読むことができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

ICT を活用することで、読み書きに困難さがある生徒にとっては学びの可能性を広げることができると感じる。文字の形を鉛筆で書くことは難しくても、タブレットを使えばフリック入力やペン機能など、個人にあった勉強の仕方を選択することができる。また、検索をすることにより、その単語に関連したさまざまな画像が表示されることで、1 つの単語に対してさまざまな角度からイメージを持たせることができると感じた。